

愛しては、ならない。

春の雪

妻夫木聡 竹内結子

高岡蒼佑 及川光博 田口トモロヲ 高畑淳子 石丸謙二郎 宮崎美子 / 岸田今日子 / 真野響子 山本 圭 榎木孝明 / 大楠道代 ・ 若尾文子

監督:行定 勲 / 原作:三島由紀夫「春の雪」(豊饒の海・第一巻)新潮文庫刊 / 主題歌:「Be My Last」宇多田ヒカル(東芝EMI) / オリジナル・サウンドトラック(東芝EMI)

製作:富山省吾 / 製作統括:島谷能成 関一由 堀 義典 細野義朗 安永義郎 / 企画:藤井浩明 三島威一郎 / プロデューサー:市川 南 臼井裕詞 甘木モリオ / 脚本:伊藤ちひろ 佐藤信介 / 脚本監修:春名 廣 / 音楽:岩代太郎
撮影:李屏賓 / 撮影補:堀本 淳 / 美術:山口 修 / 照明:中村裕樹 / 録音:伊藤裕規 / 編集:今井 剛 / 衣裳デザイン:伊藤佐智子 / ヘア・メイクデザイン:藤垣亮武 / キャスティング:杉野 剛 / スクリプター:奥田真弓 / 装飾:大坂和英
VFXスーパーバイザー:道木伸隆 / 音楽プロデューサー:北原京子 / 助監督:川口浩史 / 製作担当:田中敏雄 / ラインプロデューサー:山本 章

製作:東宝 フジテレビジョン カラー S・D・P 博報堂DYメディアパートナーズ / 制作プロダクション:東宝映画・シネパザール / 配給:東宝 四角 ①

harunoyuki.jp

snowy love fallin' in spring

その愛は 春の雪のように
淡く 美しく とけて消えゆく…

運命に翻弄される男女の悲恋を描く

せつなくも美しい

究極の純愛物語がいま始まる…

儚くも美しき悲恋 妻夫木聡 竹内結子 × 行定 勲 監督『世界の中心で、愛をさけぶ』『北の零年』



01年『GO』で鮮烈な評価を浴び、昨年『世界の中心で、愛をさけぶ』で空前の純愛ブームを牽引、05年『北の零年』では大河ロマンにまでその領域をひろげた監督・行定勲が次に挑むのが、究極の悲恋物語『春の雪』です。お互いを激しく愛しているながらも、運命に翻弄されついに結ばれることない悲しい恋の行方。そんな淡く消えゆく「永遠」を演じるのは、いまや人気実力ともに絶頂の妻夫木聡と竹内結子のふたり。運命に逆らうことで真実の愛をつかもうとする主人公・清顕。そして、その運命を受け入れることで純潔の愛を貫こうとするヒロイン・聡子。ふたりが懸命に愛したきらめく時間のなかに、観客は「究極の純愛」を見つけることでしょう。

原作「春の雪」(新潮文庫刊)は、三島由紀夫の遺作となった“豊饒の海シリーズ”四部作の第一巻。三島文学の最高傑作の恋愛小説との呼び声も高い本作は、世界各国で翻訳され、その芸術性が高く評価されている世界的ベストセラー。これまでも、フランシス・フォード・コッポラ(『ゴッドファーザー』)やチェン・カイコー(『霸王別姫〜さらばわが愛』)といった世界中の名だたる映像作家が映画化を熟望してきました。また本作の映像世界を支える撮影カメラマン李屏賓(リー・ビンビン)は、ホウ・シャオシェン監督『戲夢人生』ウォン・カーウアイ監督『花樣年華』トラン・アン・ユン監督『夏至』など、数々の名作に参加し、世界的に高い評価を得ているアジア屈指の実力派。今回の初映画化は海外からも大いに注目を集めているプロジェクトなのです。

映画『春の雪』主題歌「Be My Last」宇多田ヒカル
(東芝EMIより9月28日リリース)

本作の主題歌を担当するのは宇多田ヒカル。
17ヶ月ぶりの新曲である「Be My Last」は、『春の雪』の世界観を彼女なりに表現した美しくもせつないラブバラードです。

永遠を約束されたはずのふたりに、その悲劇は静かに訪れる…

幼なじみのふたり、侯爵家の息子・松枝清顕(妻夫木聡)と伯爵家の令嬢・綾倉聡子(竹内結子)。いつからか聡子は、清顕を恋い慕うようになっていた。清顕は聡子の想いに気づきながらも、不器用な愛情表現でしか想いを伝えられないでいた。

冬のある朝、ふたりは馬車で雪見に出かけた。静かに舞い落ちる雪の下で、初めて素直に向き合えた清顕と聡子は、どちらからともなく自然にくちづけをかわした。それは永遠とも思えるような美しい時間だった。

そのころ綾倉家では、宮家の王子・洞院宮治典王と聡子の縁談が進められていた。没落寸前の綾倉家にとって、宮家との縁談は家名復興のまたとない機会である。清顕の気持ちを必死に確かめようとする聡子だったが、あ

るすれ違いが理由で連絡も絶ち突き放したような態度をとる清顕。失望した聡子は、ついにこの縁談を受けてしまう。

ほどなく聡子の結婚が決まった。宮家との婚約は決して取り消すことができないものだ。聡子がもはや自分のものにならないことを知ったとき、はじめて清顕は彼女への愛の深さに気がつく。聡子への想いが堰を切ったように溢れてくる。ただ聡子の愛を取り戻したいと願う。一度は清顕への想いをあきらめた聡子も、彼の愛を受け入れ、ふたりは激しく愛し合う。しかし、それは許されぬ「禁断の愛」。ふたりは人目を忍んで密会を重ねることでは、幸福な時間を共有できないのだった。そして、清顕と聡子にとっての悲劇の幕開けともいえる、“ある事件”が迫っていた…



僕たちは、またいつか一緒にになれる…

10月29日(土) 東宝洋画系ロードショー

六本木ヒルズ・けやき坂コンプレックス3F
VIRGIN TOHO CINEMAS 六本木ヒルズ
☎03(5775)6090